

# 港湾振興便り



2013. 7  
第75号

目次

1 ポートエッセイ 「知床にお寺さまが大集合 ユニークな地域づくり」  
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

## 2 トピック

- 茨城港常陸那珂港区中央ふ頭地区国際物流ターミナル整備着工式典の開催  
(関東地方整備局 鹿島港湾・空港整備事務所)
- 第32回横浜開港祭2013へ参加しました！  
(関東地方整備局 京浜港湾事務所)
- 「第6回 粟島クリーンアップ作戦」に参加してきました  
(北陸地方整備局 港湾空港部 港湾計画課)
- 中国管内10番目となるオアシス“みなとオアシス境港”が誕生！  
(中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所)
- 高知県総合防災訓練へ参加～港湾業務艇による航路啓開訓練を実施～  
(四国地方整備局 高知港湾・空港整備事務所)
- 第14回干潟フェスタ開催！  
(九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所)

## 3 お知らせ

1 ポートエッセイ 「知床にお寺さまが大集合 ユニークな地域づくり」  
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

全国各地でユニークな地域づくり・地域おこしが行われているが、先月末、北海道の知床半島で体験したのも相当にユニークだった。世界自然遺産の地、知床のすごい取り組みについて報告したい。

知床の地になぜか、京都・奈良の錚々たるお寺さまが集まる催しがあると聞いたのは昨年だった。

奈良の御仏の素晴らしさを「南京新唱」や「鹿鳴集」などの短歌集で世に知らしめた會津八一が新潟市の出身だった縁で、昨年、新潟市は奈良県と歴史・文化交流協定を締結した。このため、奈良県には時折、お邪魔させてもらっている。

昨年9月、奈良・斑鳩町に會津八一の歌碑が建立されるときも寄せてもらった。その際、お

会いしたのが北海道斜里町の地域づくりグループ「日の出知布泊村」の村長、佐野博さんだった。佐野さんは作家の故立松和平と親交が厚く、知布泊村に立松さんを迎え入れ、地域づくりを20年以上前から進めてきた。昔、お堂のあった知布泊地区にお堂を復活させようと、まず知床毘沙門堂を建立した。

その後、奈良や京のお寺にイチイの木を贈ることでお寺さまとの縁をつくり、知床聖徳太子殿、知床観音堂も建立した。「毎年6月の最終日曜日に、3つの堂の例祭を開く。知床に奈良・京都のお寺さまが大集合するから、あなたも来ないか」と誘われ、今回初めて斜里町を訪ねた。

集まった顔触れがすごかった。奈良からは法隆寺の大野玄妙管長、東大寺の北河原公敬長老、半跏思惟像の弥勒菩薩で知られる中宮寺の日野西光尊ご門跡、京都からは京都仏教会理事長で金閣・銀閣を所管する相国寺の有馬頼底下らが顔をそろえた。

お寺さまにひかれて企業トップも数多く訪れる。その中で新しい取り組みも始まった。ダイキン工業では毎年、社員も知床に派遣し、ボランティアで植林活動などを続けている。知布泊村はお寺さまを招くことで平和運動の拠点となったが、いまは環境活動の聖地ともなりつつある。小さな村の、大きな取り組みだった。

\*:

## 2 トピック

\*:

### ●茨城港常陸那珂港区中央ふ頭地区国際物流ターミナル整備着工式典の開催 (関東地方整備局 鹿島港湾・空港整備事務所)

平成25年6月16日(日)、「茨城港常陸那珂港区中央ふ頭地区国際物流ターミナル整備着工式典」が執り行われました。

開催直前に大規模な台風が本州に向かっており職員一同やきもきしておりましたが、開催当日は小雨となり胸をなでおろしました。

常陸那珂港区では、現在建設機械などの外資RORO貨物が多く取り扱われており、近年の需要拡大による建設機械の輸出の急増に対応するとともに、大規模地震発生直後の物流機能の早期確保を目的として、耐震強化岸壁の整備を進めることとなりました。

着工式典は、梶山国土交通副大臣のご挨拶と、橋本茨城県知事をはじめ多数の来賓の皆様より祝辞を頂いた後、工事の順調な進捗と早期完成を願い、鍬入れが盛大に行われました。式典終了後には降りしきっていた雨も上がっており、幸先の良いスタートになりました。



梶山副大臣の挨拶



鍬入れ

●第32回横浜開港祭2013へ参加しました！

(関東地方整備局 京浜港湾事務所)

今年で開港154年目を迎える横浜港は、国際戦略港湾の一つであり、市民の生活にとって欠けがえのない重要な役割を果たしております。そこで、港の役割や事務所の事業内容の広報を目的に、6月8～9日に開催された横浜開港祭において、展示ブースにおける事業説明パネル等の展示及び業務艇「たかしまⅡ」による横浜港船上見学会（1日3便、計6便）を行いました。

展示ブースでは千葉港湾事務所の油回収兼清掃船「べいくりん」の模型を展示したこともあり、お子様からご高齢の方まで300人以上の市民の方々に訪れていただきました。中には、将来公務員を目指しているという中学生が、職員並みの港湾知識を持っていることに驚かされる一場面もありました。また、横浜港の近くにお住まいの方など、熱心に説明を聞いて下さる方もいらっしゃいました。

船上見学会では事前公募を行い、応募総数575名の中から抽選で選ばれた市民180名に普段間近で見ることのないガントリークレーンや耐震強化岸壁の工事現場などを見学していただくと共に、港の役割等についてPRを行いました。

2日間という短期間ではありますが、市民の方と触れ合うことが出来る貴重な広報活動となりました。今後も引き続き様々な広報活動を通して、より多くの方へ港の役割をPRしていく所存です。

展示ブースの様子



船上見学会の様子





●「第6回 粟島クリーンアップ作戦」に参加してきました

(北陸地方整備局 港湾空港部 港湾計画課)

粟島では、近年漂着ごみが大量に流れ着き、美しい海岸の景観を損なうとともに環境への影響を与え問題となっています。そのため、地元粟島浦村の呼びかけで粟島クリーンアップ作戦実行委員会が事業主体となり、海岸環境の美化と漂着ごみの問題を考えてもらうことを目的に島内ボランティア約100名、島外ボランティア約300名の参加による粟島の海岸に漂着するごみの清掃活動を行う「粟島クリーンアップ作戦」を企画・実施しました。同委員会では、このような取組を毎年実施することで島外ボランティアとの交流も継続的に実施しています。

平成25年6月16日に開催された「第6回 粟島クリーンアップ作戦」には島民や県内外のボランティア、関係者の方々など、老若男女合わせて425名が参加し、清掃活動に取り組みました。

約1時間半の清掃作業の結果、フレキシブルコンテナバッグ75個、約5トンのゴミが集まりました。この取組により、年々粟島の海岸は美しくなっています。

粟島はこれから磯だこ釣りツアーや大謀網漁見学などの観光シーズンを迎えます。美しくなった粟島の海岸にぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。



クリーンアップ作戦実施状況



島外からのボランティア

●中国管内10番目となるオアシス“みなとオアシス境港”が誕生！

(中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所)

平成25年6月27日に中国管内で10番目、全国で69番目の登録港となる“みなとオアシス境港”が誕生致しました。翌日、28日には赤澤政務官ご臨席のもと、戸田局長から阿倍境港市副市長に登録証の交付が行われました。

現在、観光拠点となっている水木しげるロードに近い、JR境港駅や隠岐汽船ターミナル周辺の境水道沿いのエリア（内港地区）、夢みなと公園を中心としたエリア（竹内地区）を『みなとオアシス境港』として登録することにより、観光振興等を通じた更なる地域活性化を目指します。中国地方整備局としても「みなとオアシス」における「みなとまちづくり」の取組等について積極的に協力・支援を行っていきたいと考えております。



登録証交付式の様子



●高知県総合防災訓練へ参加～港湾業務艇による航路啓開訓練を実施～  
 (四国地方整備局 高知港湾・空港整備事務所)

「高知県総合防災訓練・地域防災フェスティバル」は6月2日（日）に、安芸市・北川村・奈半利港・室戸広域公園他において、高知県防災会議等の主催により開催されました。防災訓練は、大規模地震、豪雨等実際的な災害を想定し、県市町村及び各防災関係機関による実践的な応急対策について訓練を実施することにより、総合的な防災体制の確立を図ることを目的とし、88機関・約1,100人が参加した訓練となりました。

防災訓練は2部構成され、訓練第1部は安芸市・北川村開催の「風水害想定訓練」、訓練第2部は奈半利港・室戸広域公園他開催の「南海地震・風水害想定訓練」に分かれており、当事務所は訓練第2部へ参加し、「航路啓開訓練」を実施しました。また、住民の皆様を楽しみながら防災への意識を高めていただく「地域防災フェスティバル」には、港湾施設の役割を理解してもらうために、造波模型を展示いたしました。

高知港湾・空港整備事務所では、これからも地域の自治体の防災訓練に協力し、関係機関との連携をより密にしてゆき、今後発生が予測される東南海地震や南海地震に対して、発災直後の港湾機能復旧活動に備えたいと考えています。



漂流物回収



水深確認(音響探査)・明示ブイ設置



●第14回干潟フェスタ開催！

(九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所)

6月8日(土)、熊本港親水緑地広場と熊本港周辺の干潟にて「干潟フェスタ」が開催されました。このイベントは、熊本港周辺に広がる干潟を散策しながら、干潟に棲む生物の観察を通して、美しい有明海とその干潟の環境を実感してもらう場として、また、有明・八代海の現状や沿岸域の災害と対策等のパネル展示を通じて干潟の機能や大切さを市民に知らせるイベントとして、熊本大学を中心に国、県、NPOが共催して平成12年から実施しており、今年で14回目の開催となりました。

当日は1,000人近い親子連れの来場があり、干潟体験会場での干潟の生き物の観察やむつごろう検定、親水緑地広場での採泥疑似体験(簡易計を使って環境調査)などが行われました。当事務所でも、貝による海水浄化実験(小さな貝が驚くほどのスピードで海水の浄化を行う)、海の生き物プレート作り(有明・八代海に棲む生き物を知る)、海洋環境整備船「海輝」の体験乗船などの催しを行いました。



干潟の生き物の観察



貝による海水浄化実験



海の生き物プレート作り



「海輝」流木回収デモの体験乗船

